

SHINGON HORONIC

色

IRO

は

WA

匂

NIO

へ

E

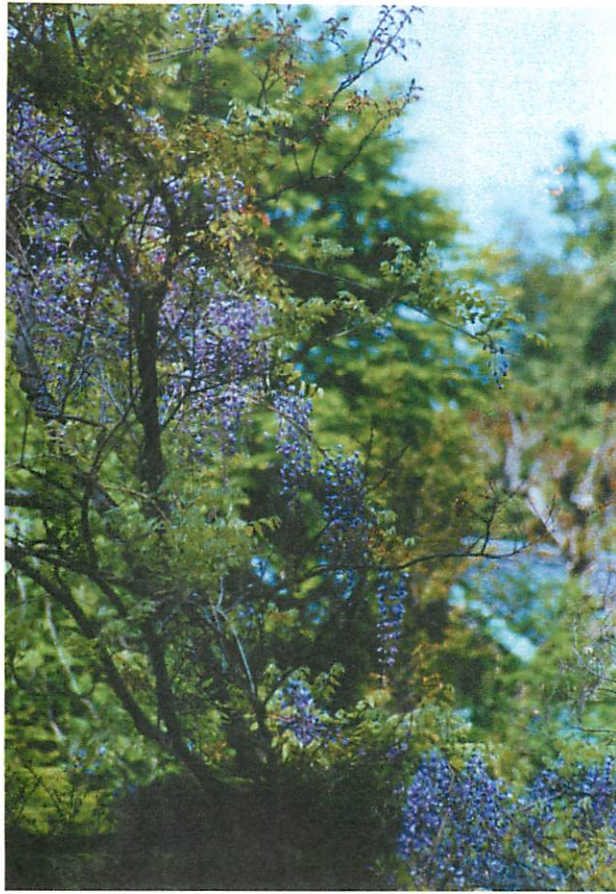
ど

DO



イルカの秘密

平成十五年文月一日発行 卷二十七



自然法爾
じねんほうに

花の一片に
宇宙の真理が咲き

宇宙の実相が一輪の花に
輝き咲き競う
華藏界 華嚴世界
けぞうかい けごん

自然はそのまま あるがままで
宇宙の真理実相の顕れ

編集主幹 阿部龍樹

特集
イルカの秘密



3

心の絵言葉

さるとわに (ジャータカ物語より)



9

日本のこころとかたち



11

現代の道しるべ 13



情報コーナー

15

お釈迦様真理の花束



17



特集 イルカの秘密



イルカと真魚と魚養

イルカは古来から日本でも親しまれている生き物です。人の名前にもなっています。

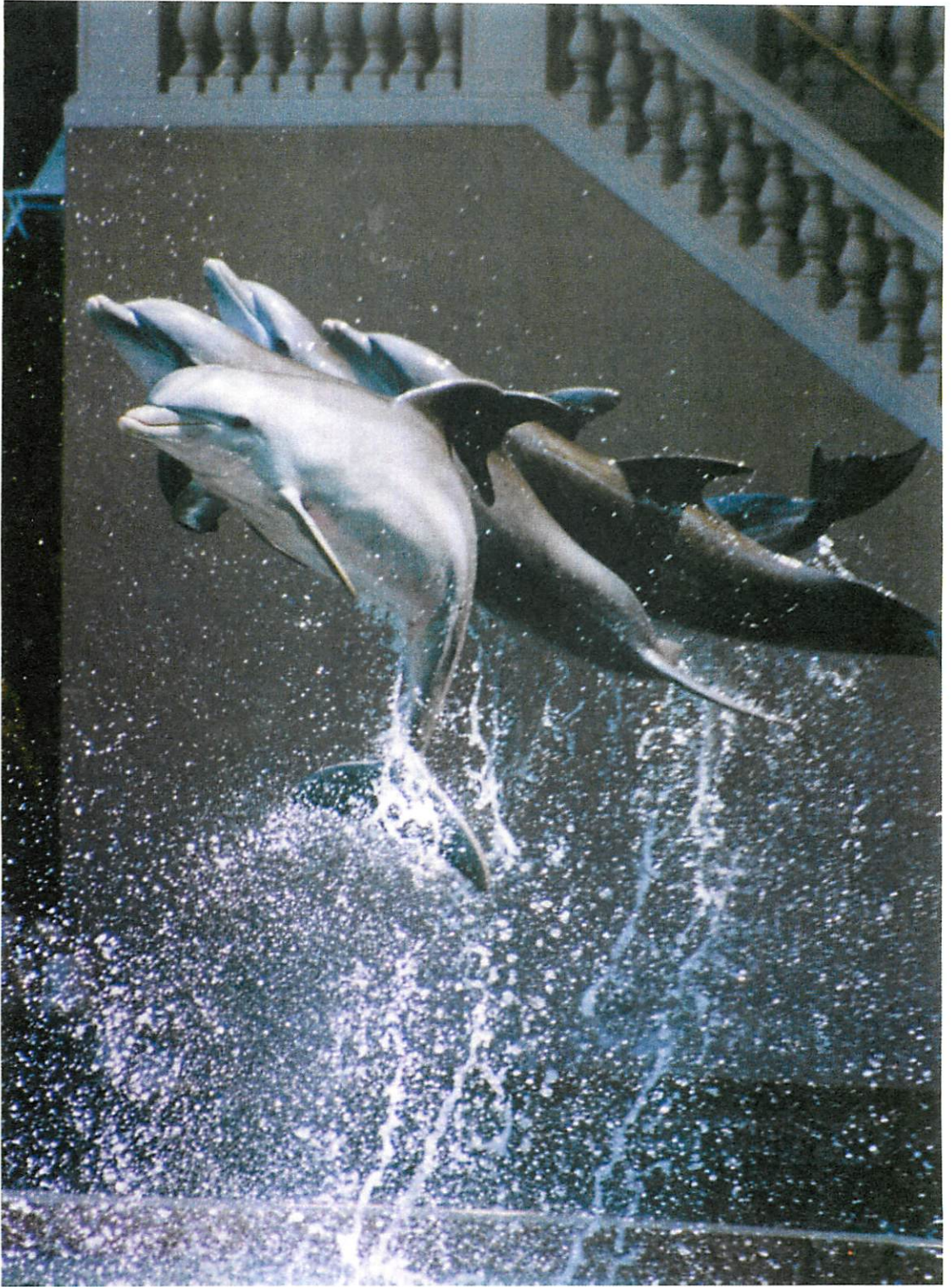
弘法大師空海は幼名を真魚まおといました。真魚がどんな魚かは分かりませんが、私はなんとなくイルカを想像していました。

奈良時代の能書家（書の達人）に魚養ぎよやうという人がいました。奈良七大寺の扁額へんがくはすべてこの人が書いたといわれていますし、弘法大師空海の書の先生だったともいわれています。

この魚養は遣唐使の吉備真備の子供だという説があります。吉備真備が唐から帰る船上で台風に遭い、船が難破しそうになります。その時、吉備真備の妻は自らの生命と子供の生命を海神に捧げ船を守ります。船は漸く日本へたどり着きます。日本へ戻った吉備真備が海辺を歩いていると、海上になにやら白いものがみえます。やがてその白いものが陸へ近づいてくると、四歳ほどの童です。よく見るとその子は白い大きな魚の上に乗っていました。その子が首から下げている札には、



イルカは古来から日本でも多く見られ親しまれていた。



イルカは想像力と遊び心をもっている。海上への跳躍力ももっとも優れている。

吉備真備の名前が記されていました。海中に沈んだと思った我が子が戻ったことにとても喜び、魚に生命を助けられたので『魚養』と名付けました。この魚がイルカだったともいわれていますし、西洋の神話にも似た話があります。またイルカが海で人を助けたという話は古来から、現代までとても多くあります。

イルカの遊び心

またイルカはとても遊び心を持っています。

キリスト教などの一神教では人以外の生き物には心がないといえます。アメリカである時、水族館でイルカの取材に来た記者が、水族館の人からイルカの遊び心を説明されて、動物に心があることが信じられませんでした。ガラス越しのイルカにむかってその記者がたばこの煙を吹きかけました。イルカはその様子を見てどこかへ行きましたが、また記者の前に戻ってきました。するとイルカは記者に向かって口から細かい泡を吹きかけました。それは白いたばこの煙によく似ています。

イルカに遊び心があることは、少し海に親しんだ人なら誰でも知っています。ヨットなどとは並んで何キロも泳ぎついてきます。

またイルカたちが、水の泡を巧みに使って遊ぶことも良く知られています。このイルカたちがつくる水の泡をドルフィン・リングと呼びますが、先ほどの記者に吹きかけた泡もドルフィン・リングの一種です。大きなドルフィン・リングをつくってその形を変えたり中をくぐったり、また一つ目のリングに、もう一つのリングを重ねたりつなげて遊ぶこともあります。

また水中で親子で餌になる小魚をキャッチボールのようにして遊ぶ光景もみられるそうです。これは親イルカが、子供に餌の取り方を教えている場面だともいわれますが、キャッチボールは親子だけでするわけではなく、やはりイルカたちが楽しんで遊んでいるのでしょう。さらにイルカは波乗りをして楽しむことでも知られています。

大きな波に乗って滑り台を楽しむ子供のように、何度も波に乗って遊ぶ姿は想像しただけで楽しくなります。

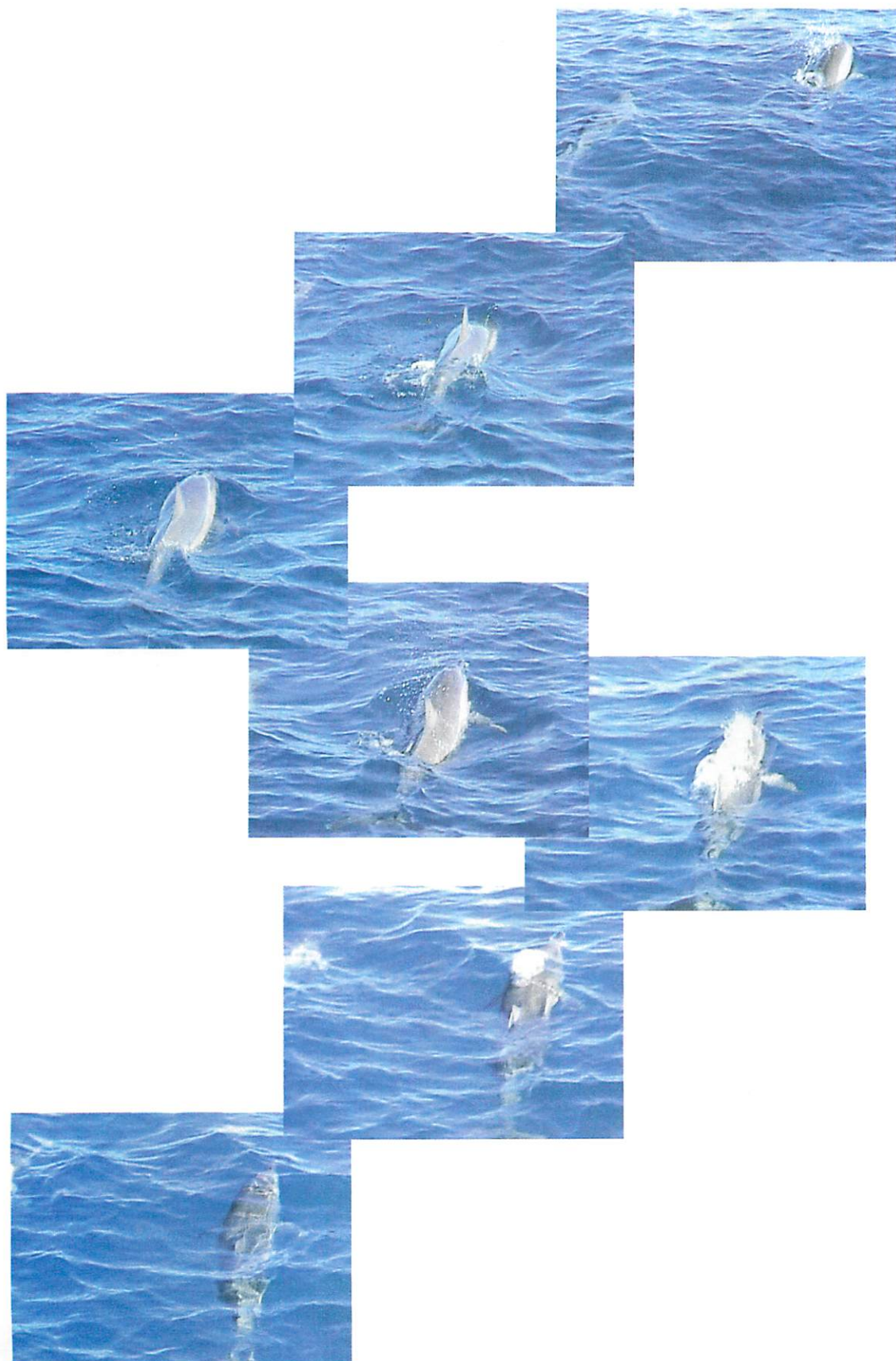
そして最近イルカには人を癒す力があるのではないかと知られています。



イルカだけではなく、動物と触れあうだけで人の心は癒されるといいます。しかし特にイルカには溺れている人を助けようとする**利他的**な行動が見られます。イルカの利他的な行動は大変高次の活動で知能が高いというチンパンジーにも見られないといえます。イルカの利他的な行動はグループ間でも見られます。イルカ同志で助けられたグループのイルカが、今度は助けてくれたグループの危機を救うという恩返しさえするそうです。

またイルカは餌の取り方など特定の文化を親から子供へ継承していくといえます。ある島では、イルカと漁師が魚獲りを共同して行うといえます。イルカが沖から陸に向かって魚を追いつみ、その魚を漁師が獲ります。また沖に帰ろうとする魚をイルカが餌とします。この共同作業は特定のイルカの親から子供へと受け継がれて、他のイルカには見られない行動で、イルカがある文化を親子間で受けついでいけることを示しています。

イルカは人類とは別な形のほ乳類の進化した姿です。イルカの秘密を解き明かすことで、行き詰まりつつある地球文明の新たな方向性が見えてきます。



さるとわに

絵 美薫

むかしむかし菩薩はさるとなつてヒマラヤのふもと、ベナレスに生まれました。立派に成長して象のように大きくライオンのように強いさるの王様になりました。

ベナレスを流れるガンジス川にはワニが住んでいました。そのワニの妻が、大きくて立派な身体をしたさるをみて、急にそのさるの心臓を食べたくなりました。ワニの妻は夫にいいました。「ねえ、おまえ。私はあの立派なさるの王様の心臓が食べたくでしょう

がない。なんとかしておくれよ。」「そうはいってもさるは陸に住む動物。私たちは川に生きるもの。どうしてさるが捕まえられるものか。」するとまたワニの妻がいいました。

「そんなことを言わないで、なんとかしておくれよ。あの心臓が食べられなければ、私は死んでしまいます。」「よしよし、なんとかしよう。」さるの王様が川のほとりに水を飲みにやってきました。ワニはさるにいいました。「さるさん、ガンジス川の向こうにはマンゴもバナナ

も食べ放題、なぜ向こうに行かないんです?」「この広くて深い川があるので行けないですよ。」

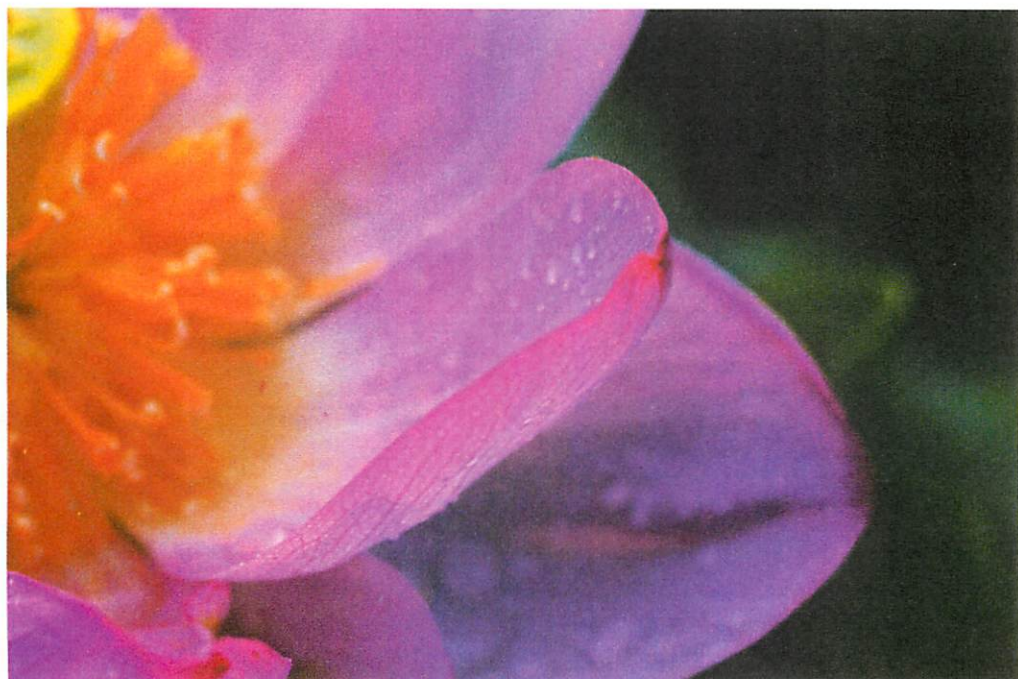
「それなら私が背中に乗せて運んであげましょう。」ワニはさるを背中に乗せて川に入るとすぐにさるを川に沈めようと思いました。さるはおどろいて、「ワニさん! 何で私を水に沈めるのですか?」「実はお前の大きくて立派な心臓が食べたいからだましたのさ。」するとさるは「なーんだ、それならそうと早く言ってください。私たちさるは木から木へ飛ぶので大事な心臓はいつもイチジクの木にかけてあるのですよ。」「そうか、その心臓をくれたらお前を助けてやろう。」「では私をイチジクの所へ連れてってください。」すぐに心臓を取ってきますから。」ワニはさるをイチジクの木の下へ連れていくと、さるはさつと木に登り高いイチジクの木の上から言いました。「ワニのおばか





さん。お前は生き物が自分の心臓を木のでっぺんに引っかけておくとても本当に思ったのかい？心臓がなければ体中の血の流れは止まり生き物は死んでしまうよ。そして智慧があればどんなピンチも乗り越えられるよ。相手を騙す浅はかな考えからも、こうして智慧をはたらかせれば助かるのさ。」ワニはがっかりとして自分のすみかへ帰っていきました。

ジャータカ物語はお釈迦様の前世の物語です。お釈迦様の前世は猿の王や金の白鳥やときにはかわいいウサギなど様々な生き物でした。そして多くの善行と徳を積み重ねたのでやがてお釈迦様となりました。ジャータカ物語には日本の童話やイソップ物語のもとになるお話も多くあります。親が子供に読み聞かせるのにも最適です。



蓮ほどお盆に似合う花はない

夏になるとお盆がやってくる。
遠くに旅立った先祖や亡くなった
身近な人たちが帰ってくる。

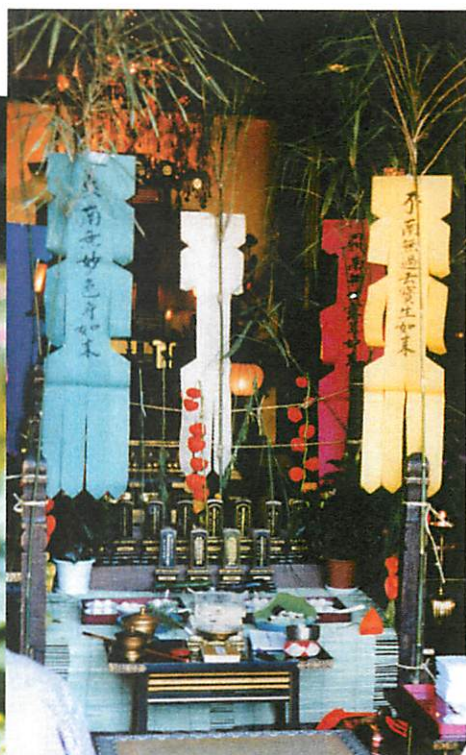
家々には精霊棚がかざられ、
仏壇の中の位牌もすべて
御棚におかざりして
供養をする。

御棚のかざりかたは
地方によって、
また同じ土地でも家々で異なる。

家の前で焚かれたお明かりを
目印に先祖や亡くなった家族が帰ってくる。
その御霊をお迎えするために
親戚が集まったり
遠くへ移った家族達も帰ってくる。



蓮は深い泥中から美しい華を咲かせる



美しく飾られた精霊棚

手を合わせることで、
知らず知らずに
先祖のことや家族のこと、
生命のことを
学ぶことができる。



鉄腕アトムはきっとそうした技術の中から生まれたロボットですが、ロボット技術の進歩と新しい科学の融合がアトムの誕生を近づけます。

統一地方選挙も大きな変化がありました。東京都の石原都知事は圧勝で再選を果たしました。東京都選出の国会議員25名の総得票数を超える300万票を一人で獲得しました。常に国政と対峙する姿勢を4年間、貫いてきたことが勝因です。

長野県の田中知事は議会からの不信任案で失職しましたが、選挙でやはり圧勝して二期目の途中です。

都市部でも地方でも国民は世の中の激しい変化を実感しています。航海する船客達がデッキから海を見ていて、激しい風の変化と潮流、大きなうねりに気付いているからです。肝心の船長とそれを取り巻く人達は、船の最上部の空調が効いた快適でとりあえずもっとも安全な場所でぼんやりしているようにみえます。今この瞬間から変えていかないと明日はありません。

道元さんがある寺で老僧を見ました。その老僧は炎天下に汗をかきながら椎茸を干しています。道元さんは老僧に「別な日になされば」と進めましたが「**さらにいつれの時をか待たん**」と答えられました。つまり「今の時を逃しては、いつその時があるのか」「今この一瞬が二度とない、とうとい時」だということです。若い時は何か自分の寿命がいつまでもあるように感じられます。寿命は授かったものですから人によって全く異なります。平均寿命などはまったくあてにはなりません。50歳の人があと30年は生きられそうだと計算して漫然と生きるよりは、今この一瞬を大切に作る人の方が遙かに輝いています。

かつてアメリカのケネディ大統領が来日したおり、尊敬する日本の政治家として上杉鷹山公の名前をあげました。上杉鷹山公は今から250年前に生まれ山形、米沢藩へ藩主として養子に行きます。当時の米沢藩は経済的に困窮を極めていましたが、藩主自ら藩政の改革に乗り出し、多くの困難や反対を乗り越えてます。多くの新しい人材の登用、学問の興隆と産業の新たなる振興で藩の困窮を脱しますが、そしてなにより大きな功績は「やれば出来る」ということで民の心を回復させたことです。

そして常に清新な藩政のため、自らは35歳という若さで引退しています。

現代の道しるべ



今、世の中が激しい速さで変わりつつあります。
その一つの要因が**速度**、スピードの変化です。**情報**の伝達速度が加速度をつけながら速くなっています。これだけ情報が飛び交うスピードが速くなると、情報を隠しても、日をおかずに真実が白日のもとにさらされますし、虚偽の情報もすぐに虚偽であることがわかります。

この情報の伝達の速さが東京電力が管理運営するすべての原子力発電を停止させました。原子力発電には廃棄物の処理の難しさや、地震やテロの場合の予測される被害の大きさから、反対する声が大きくなりました。しかしエネルギーを中近東からはるばる海を越えて輸送してくる石油による火力発電と、山と川を切り開いてダムを建設して漸く得られる水力発電だけでは、日本の電力はまかなえません。そのため多くの反対や不安を押し切って進めてきた原子力発電建設です。その建設には地域住民の理解を得るために原子力発電の絶対的な安全性が条件でした。しかし相次ぐトラブルがありながら、それを隠し続けたことにより、原子力発電の安全性そのものの信頼も損ない、すべての原子力発電が停止しました。この夏は必要とされる電力の約1割の570万キロワットの電力が不足します。節電は当然ですが使わない電気機器のスイッチを切るだけではなく、コンセントからコードを抜くということが大きな節電になります。しかし根本的な解決は太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーの有効活用が急務です。

人の**遺伝子の情報**がこの春すべて解読されました。約30億もある科学の文字が複雑に並ぶ遺伝情報はまさに暗号です。その暗号解読が始まって12年でその全容が明らかになりました。この遺伝情報の解読によって、これからの医学、生物学、生命学が驚異的な速さで変化と進化をすることは明らかです。さらには新しい生物化科学工業が生まれる可能性があります。すでに液晶には有機物質を使った液晶が実用化されていますから、今後は全く新しい分野が開かれていきます。薬は勿論、建設でも塗装でも照明でも新しい方法が開発されるでしょうし、原材料そのものに新しい素材が生まれる可能性があります。ぜひ地球環境に有効な開発がまたれます。

光合成する（酸素を供給できる）外壁材が開発されればCO₂の問題や、オゾンホールの問題の解消に繋がります。今、**光触媒**が開発されて酸化チタンを使った外壁材が汚れを落としたり、また池やプールの浄化にも有効です。

お釈迦様真理の花束



Hunger is the greatest disease, Aggregates the greatest ill;
Knowing this as it really is (the wise realise) Nibbana,
the bliss supreme.

Health is the highest gain,
Contentment is the greatest wealth,
Confidential are the best kinsmen,
Nibbana is the bliss supreme.

涅	厚	知	無	涅	己	行	飢
槃	為	足	病	槃	諦	為	為
最	最	最	最	最	知	最	大
快	友	富	利	樂	此	苦	病



飢えは上なき病
この身は最上の苦しみあり

このことわりを

あるがままに知らば

そこに

こよなき楽しみ

涅槃あるべし

無病は
上なき利なり

足るを知るは
最上の宝

信賴こそは
至上の親族

涅槃こそ
最上の安楽なり

『不安定だから強い』

武術家 甲野善紀の世界

田中 聡

晶文社

昨年、巨人の桑田投手復活の大きな一因となった古武術について、その技と思想を著した本です。

弘法大師は「即身成仏」を説き、身体性こそ密教の秘密を解き明かす最も重要な鍵です。しかし現代人の身体性は、近代化の中で、数値目標にとらわれていきます。より速く走る、より重たいものを持ち上げる、

より遠くへ飛ばす。そのために大きな筋肉を鍛え強い筋力を付ける事が最優先されます。そしてその大きな筋肉を纏った身体をより深く大きくひねり、ねじり、ためることから、パワーが生まれると言われるています。しかし古武術では大きな筋肉はかえって邪魔になり、よりしなやかな身体性と小さな筋肉を意識することでより早いスピードと力が生まれます。それは巨大な鯨が向きを変えるより、小さな魚の群が一瞬にして向きを変えることに喩えられます。

またより不安定な姿勢の方が強い。蹲踞相撲をすると膝を地に着く者より着けない者が勝ち、両足を地に着ける者より片足の者が勝ちます。

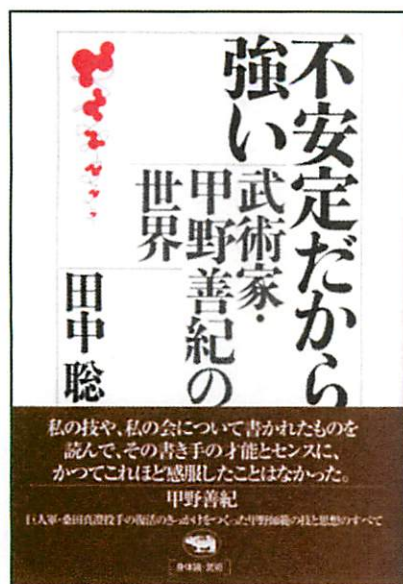
今、若者は立ち話が出来ずしゃがみ込んで話したり、背骨が湾曲した子供が多くなりました。身体性は心の現れでも有ります。身体の新たな地平を拓く好著です。

『カラスとかしこく付き合う法』

杉田昭栄

草思社

月には兎が住み、太陽にはカラスが住んでいます。三本足のカラスです。陰陽説では偶数が陰、奇数が陽です。太陽は陽なのでそこに住むカラスの足も奇数の三になりました。都会ではカラスの被害が尋常ではありません。カラスが帰るべき山が乱開発でなくなったからだという説もあります。そのカラスの習性、行動パターンを本書は詳しく説き明かしています。



『不老長寿』

熊谷義也 中島和彦 ぴいぷる社

今は健康ブームで、テレビで「身体に良い」といえばココアでも、きなこでも飛ぶように売れて店頭から姿を消すほどです。ワインも身体に良い、チョコレートも身体に良いということまで売り上げが伸びたそうです。しかし偏った過剰な摂取が真の健康に繋がらないことは明らかです。日本は先進国でまれにみる長寿国であり同時に超少子化が進んでいます。



それは今後医者や病院にかかる人口の急激な増加と、その医療費を支える人口の極端な減少から、日本の医療の質の低下が懸念されます。そうした中で自己管理ほど優れた健康法はありません。自らの身体をより若く健やかに保つための良き指南書です。

『ブッダは最高の治療をする』

A・スマナサーラ スタープレス



仏教では「生死しょうじの大事」という言葉があります。生と死は別々のものではなく、死は生の完成点です。昨今の健康ブームは、よりよく生きたいという現代人の願望の現れです。しかし死をタブー視し、身体的な健康ばかりを求めても真のよりよい生活を営むことはできません。また日本では古来から「病は気から」という言葉もあります。

「健康でありたい、長生きしたい。」と思うだけでもストレスがかかると思います。死を見つめ老いを素直に見つめることからこそ、真の豊かな生活が始まります。



次回発行は9月1日予定

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/SFU FUJIWARA Editorial Staff/ SAMURO MIWA
 TOKUMARU KOJI MOTOYAMA KAZUFUMI OYAMA CHIGUSA SHIMAZU RYUTOKU KAWASAKI YUKIKO KAWAMURA KAZUYA
 HOMEPAGE DESIGN MASAOKI OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSHA+SHOEIDO Printing KORINKAKU
 EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第二十七号 平成十五年水無月一日発行

R100